



第7次鹿角市総合計画

まちづくり中高生アンケート 調査結果報告書

令和元年 10 月

鹿角市総務部政策企画課総合戦略室

目 次

I	実施概要	2
II	設問別集計結果	5
B	あなたの将来について	6
B-1	将来、鹿角市に住みたいと思うか	6
B-2	「住みたい」と考える理由	9
B-3	「住まない」と考える理由	12
B-4	将来、自分の力で生きていくために必要と考える能力	15
	・ 「居住意向」 × 「将来スキル」 のクロス集計	17
	・ 「希望職種の有無」 × 「将来スキル」 のクロス集計	18
C	今後のまちづくりについて	19
C-1	豊かに暮らすために大切だと思うまちの姿	19
	・ 市民アンケートとの比較	21
	・ 「居住意向」 × 「今後のまちづくり」 のクロス集計	22
C-2	将来に財産として残したいもの	23
資料	まちづくり中高生アンケート調査回答票	25

I 実施概要

1 調査目的

令和3年度を初年度とする「第7次鹿角市総合計画（令和3年度～令和12年度）」の策定にあたり、本市の将来を担う中学生及び高校生の地元定着意識や本市の将来像についての考えを調査し、地元定着対策を含めた将来都市像の設定に反映させることを目的としています。

2 調査設計

- (1) 調査対象 市内5中学校、2高校の全学年 1,251人
- (2) 調査方法 学校配付・学校回収
- (3) 調査期間 令和元年7月9日（火）～7月22日（月）

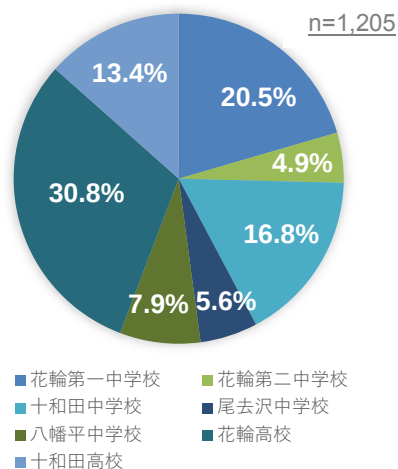
3 調査項目

設問	設問内容
A あなた自身について (属性調査)	A-1 通学している学校と学年
	A-2 性別
	A-3 居住地域（高校生のみ）
B あなたの将来について (地元定着意識調査)	B-1 将来、鹿角市に住みたいと思うか
	B-2 「住みたい」と考える理由（人生観＋職業観）
	B-3 「住まない」と考える理由（人生観＋職業観）
	B-4 将来、自分の力で生きていくために必要と考える能力（職業観）
C 今後のまちづくりについて (まちの将来意識調査)	C-1 豊かに暮らすために大切だと思うまちの姿
	C-2 将来に財産として残したいもの

4 回答状況

アンケートの対象者及び回答者数は次のとおりです。構成比¹は、その区分の対象者（回答者）が全対象者（回答者）のうち何％を占めているかを表しています。回収率²（96.3％）は、その区分の対象者数のうち何％³が回答を寄せたかを表しています。

学校名	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
花輪第一中学校	267人	21.3%	247人	20.5%	92.5%
花輪第二中学校	61人	4.9%	59人	4.9%	96.7%
十和田中学校	215人	17.2%	203人	16.8%	94.4%
尾去沢中学校	70人	5.6%	68人	5.6%	97.1%
八幡平中学校	97人	7.8%	95人	7.9%	97.9%
花輪高等学校	374人	29.9%	371人	30.8%	99.2%
十和田高等学校	167人	13.3%	162人	13.4%	97.0%
合計	1,251人	100%	1,205人	99.9%	96.3%



¹ 構成比 = その区分に属する対象者数（回答者数）÷全対象者数（全回答者数）

² 回収率 = その区分に属する回答者数÷その区分に属する対象者数

³ 各設問における項目選択の割合（％）は、四捨五入の関係で合計が100％にならない場合があります。

5 回答者の属性

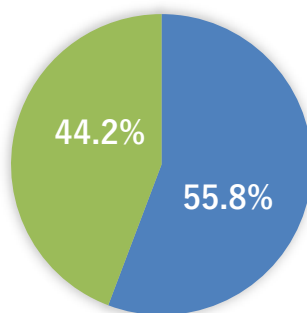
設問Aでは、回答者の属性を把握するため、学校名・学年、性別、居住地域について調査しました。

中高生別では中学生が 55.8%、高校生が 44.2% となっており、学校別では所属生徒数によって違いはあるものの、花輪高校が 30.8%、次いで花輪第一中学校が 20.5%、十和田中学校が 16.8% となっています。学年別では、中学校では 3 年生が 19.2%、高校では 2 年生が 15.5% と最も多くなっています。

男女別では男性が 49.0%、女性が 50.0% とほぼ同数となっています。居住地区別では、市内が 94.7% を占めますが、その内訳は、花輪地区が 43.7% と最も高く、次いで十和田地区が 28.0%、八幡平地区が 12.8% となっています。また、高校における市外からの通学状況を見ると、小坂町が 8.1%、大館市が 1.9%、八幡平市が 1.3% となっています。

(1) 中高生別

区分	回答者数	
	人数	構成比
中学生	672 人	55.8%
高校生	533 人	44.2%
合計	1,205 人	100%

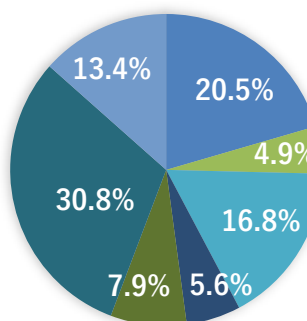


回答者数 n=1,205

■ 中学生
■ 高校生

(2) 学校別

区分	回答者数	
	人数	構成比
花輪第一中学校	247 人	20.5%
花輪第二中学校	59 人	4.9%
十和田中学校	203 人	16.8%
尾去沢中学校	68 人	5.6%
八幡平中学校	95 人	7.9%
花輪高等学校	371 人	30.8%
十和田高等学校	162 人	13.4%
合計	1,205 人	100%

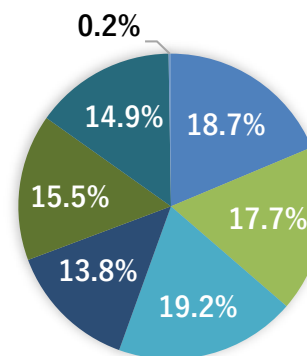


回答者数 n=1,205

■ 花輪第一中学校
■ 花輪第二中学校
■ 十和田中学校
■ 尾去沢中学校
■ 八幡平中学校
■ 花輪高校
■ 十和田高校

(3) 学年別

区分	回答者数	
	人数	構成比
中学 1 年生	225 人	18.7%
中学 2 年生	213 人	17.7%
中学 3 年生	231 人	19.2%
高校 1 年生	166 人	13.8%
高校 2 年生	187 人	15.5%
高校 3 年生	180 人	14.9%
無回答	3 人	0.2%
合計	1,205 人	100%

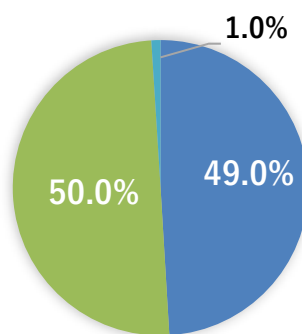


回答者数 n=1,205

■ 中学 1 年生
■ 中学 2 年生
■ 中学 3 年生
■ 高校 1 年生
■ 高校 2 年生
■ 高校 3 年生
■ 無回答

(4) 男女別

区分	回答者数	
	人数	構成比
男性	591 人	49.0%
女性	602 人	50.0%
無回答	12 人	1.0%
合計	1,205 人	100%

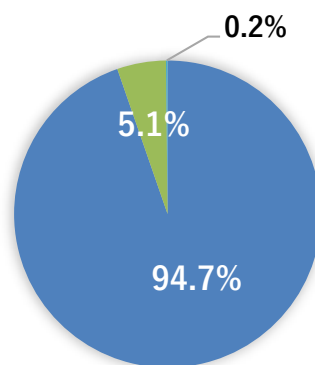


回答者数 n=1,205

- 男性
- 女性
- 無回答

(5) 居住地区別⁴

区分	回答者数	
	人数	構成比
市内	1,141 人	94.7%
市外	62 人	5.1%
無回答	2 人	0.2%
合計	1,205 人	100%



回答者数 n=1,205

- 市内
- 市外
- 無回答

⁴ 居住地区別の人数については、中学生については設問A-1の通学している学校、高校生については設問A-3の居住地区をもとに合算して算出した。

II 設問別集計結果



B-1

あなたは、大人になったら鹿角市に住みたいと思いますか。当てはまるもの 1つを選び、○をつけてください。

1. 引き続き住みたいと思う → B2へ
2. 進学や就職等で一度離れるかもしれないが、将来的には住みたいと思う → B2へ
3. 将来的にも住まないと思う → B3へ
4. わからない

- 42.9%が居留意向⁵あり。将来的にも住まないと思う割合 34.9%を上回る
- 将来的にも住まないと思う割合は女性が高い傾向に

【分析結果】

本市への居留意向について、「1. 引き続き住みたいと思う」を選択した割合は全体の 11.9%、「2. 進学や就職等で一度離れるかもしれないが、将来的には住みたいと思う」を選択した割合は 31.0%であり、両方を合わせると 42.9%の生徒が本市への居留意向があることを示しています。一方、「3. 将来的にも住まないと思う」を選択した割合は 34.9%と全体の 3 割強となったほか、「4. わからない」を選択した割合も 21.7%となりました。

中高生別では、居留意向がある割合は中学生が 44.1%、高校生が 41.3%とその差に大きな開きはありませんが、住まないと思う割合を見ると、中学生が 31.8%に対し、高校生が 38.6%と 6.8 ポイント高くなっています。

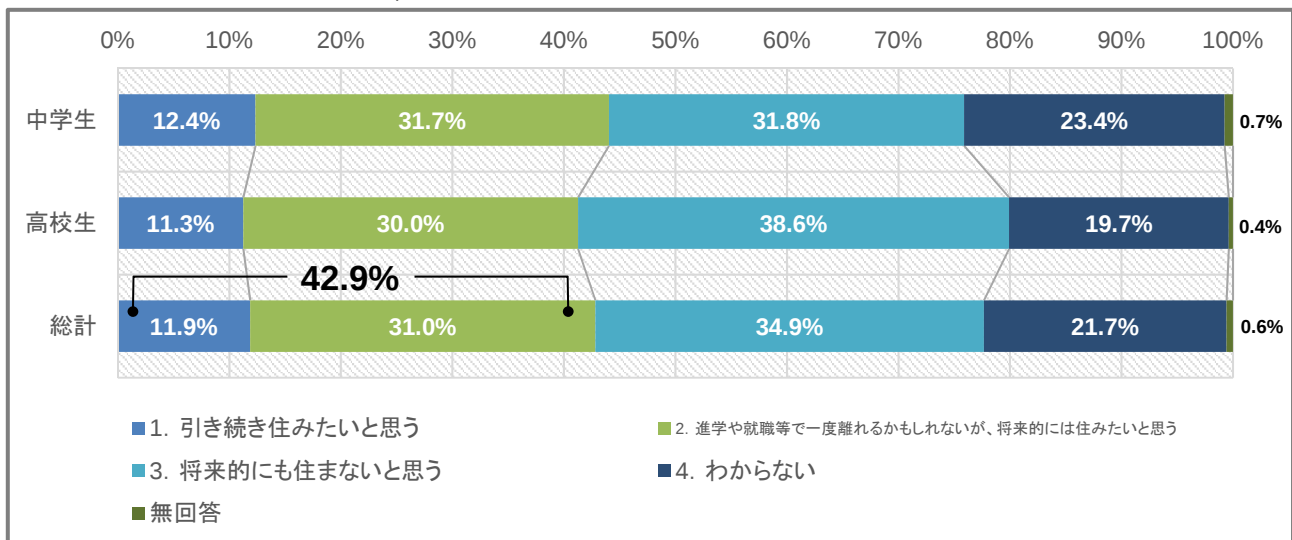
学年別では、居留意向が最も高いのは中学 1 年生で 52.0%、2 番目は高校 3 年生の 51.2%、3 番目は中学校 3 年生の 44.6%となっており、卒業や進学など、自分の将来を意識する年代で変化が見られます。

男女別では、居留意向ありの内訳に大きな差が見られました。引き続き住みたいと思う割合を見ると、男性の 16.2%に対して女性は 7.8%と低く、逆に一度市外へ出るかもしれないが鹿角市に戻りたいという意識は、男性の 28.1%に対し、女性は 34.1%と 6 ポイント高くなっています。一方、「3. 将来的にも住まないと思う」の割合は、男性が 32.5%であるのに対し、女性は 37.4%と 4.9 ポイント高く、女性の約 4 割弱が将来的にも本市へ戻らない意識があることが窺えます。

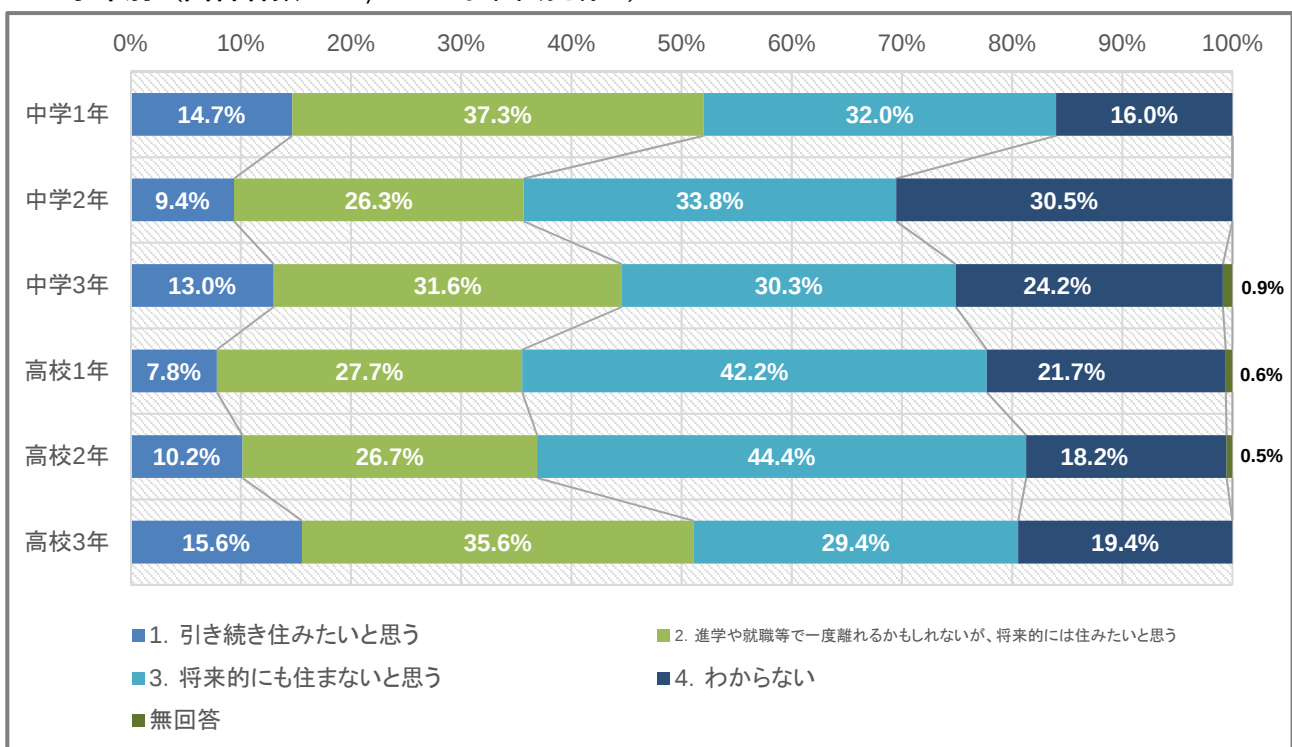
在住地区別では、花輪地区の居留意向が 45.9%で最も高く、続いて十和田地区が 42.3%、八幡平地区が 41.7%となっていますが、地区ごとに中高生の居留意向を詳しく見てみると、八幡平地区と尾去沢地区では、高校生の方が高い居留意向を示しているのに対し、花輪地区と十和田地区は逆に高校生の方が低下することが窺えます。

⁵ 「1. 引き続き住みたいと思う」「2. 進学や就職等で一度離れるかもしれないが、将来的には住みたいと思う」を選択した割合を「居留意向がある」としている。

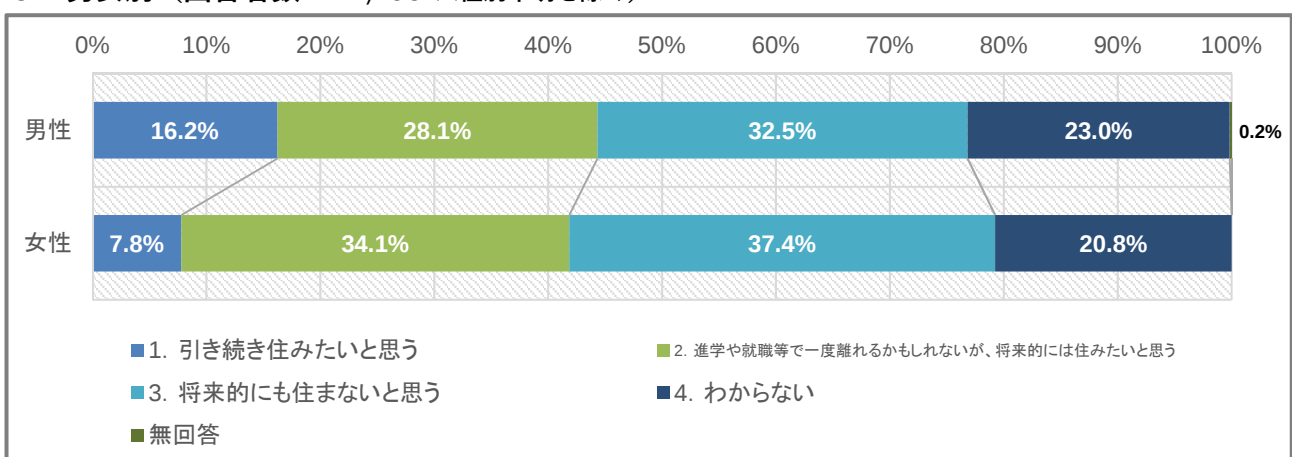
1 中高生別（回答者数 n=1,205）



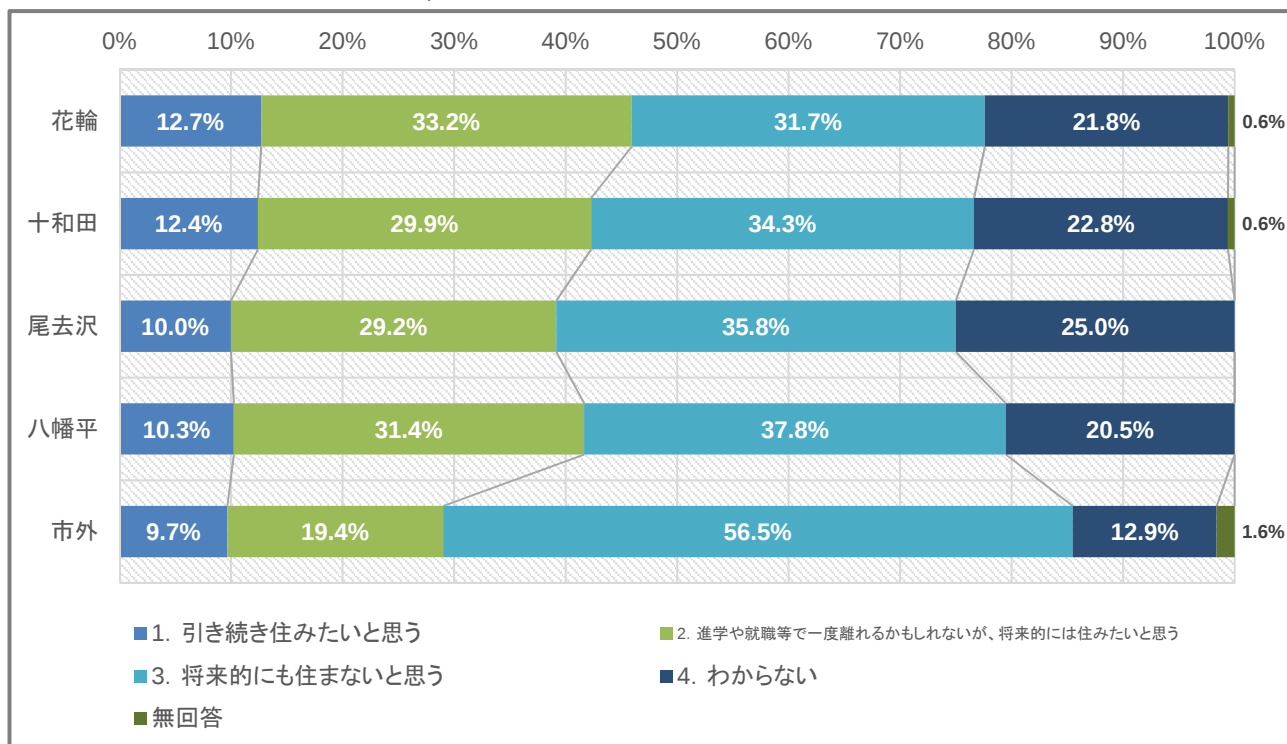
2 学年別（回答者数 n=1,202 ※学年不明を除く）



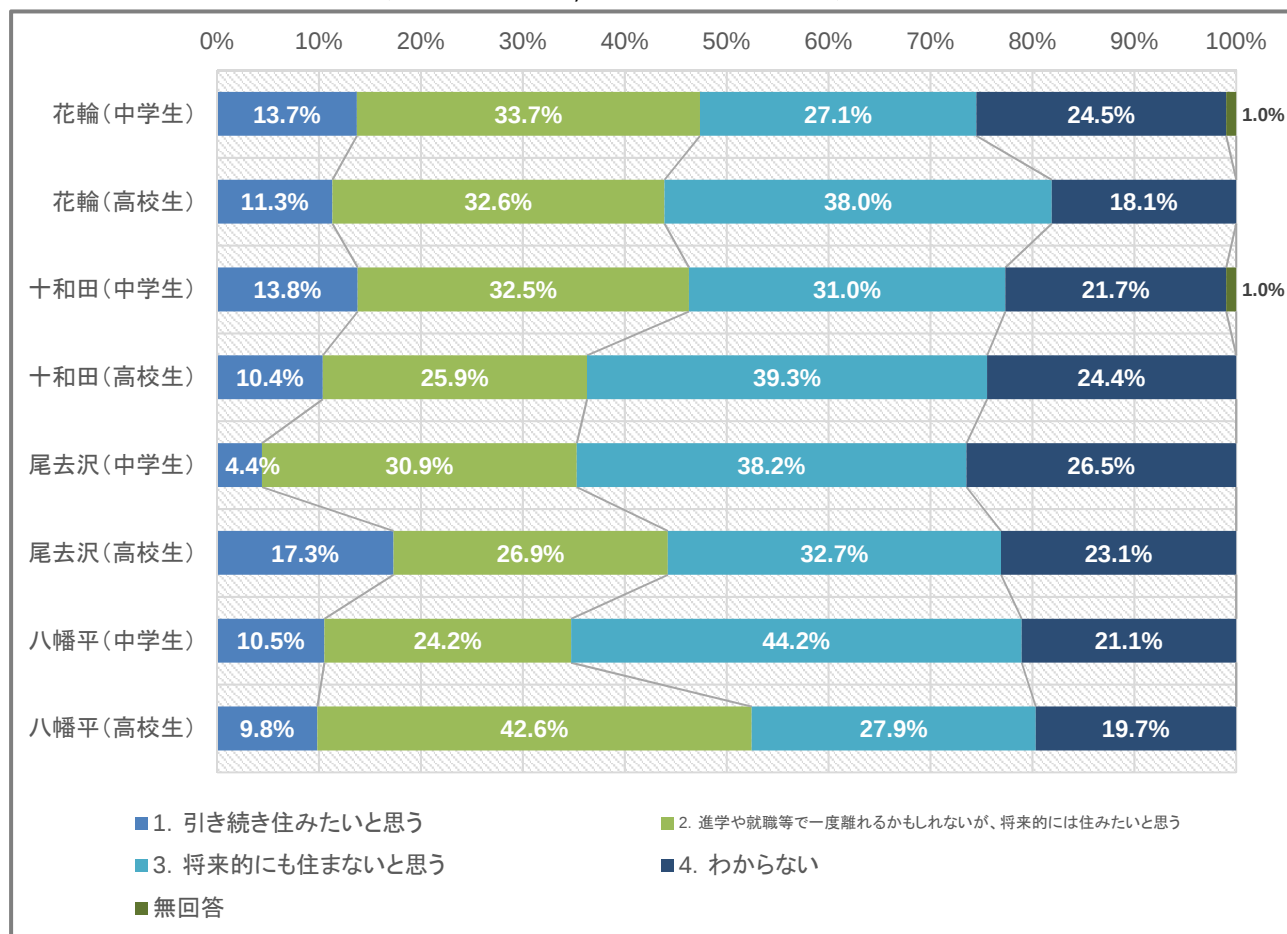
3 男女別（回答者数 n=1,193 ※性別不明を除く）



4 在住地区別（回答者数 n=1,203 ※地区不明を除く）



5 在住地区別×中高生別（回答者数 n=1,141 ※地区不明を除く）



B-2

B-1 で 1 又は 2 を選んだ人にお聞きします。「住みたい」と考える理由は何ですか。当
てはまるもの **1 つを選び**、○をつけてください。

1. 生まれ育った地域を離れたくないから
2. 家族や友人が住んでいるから
3. 家や家業を継ぐから
4. 希望する職場や職業がある、又は自ら起業（新しく事業を起こすこと）したいから
5. その他（具体的に：_____）

- 住みたい理由は「家族や友人」「生まれ育った地域」が7割強、学年が上がるにつれて職業観⁶に関する理由より優先される傾向に
- 「家族や友人」を理由とする割合は女性が高い

【分析結果】

本市に住みたいと思う理由で最も多かったのは「２．家族や友人が住んでいるから」で37.6%、次に多かったのは「１．生まれ育った地域を離れたくないから」で35.1%でした。「４．希望する職場や職業がある、又は自ら起業したいから」は11.0%、「３．家や家業を継ぐから」は5.4%でした。

中高生別で見ると、家族や友人の存在を理由とする割合にほとんど差はありませんが、生まれ育った地域を離れたくないと思う割合は高校生の方が高く、地元で愛着を持つ意識が高いことが窺えます。

学年別では、中学１年生が職業観に関する理由を挙げる割合が最も高くなっています。学年が上がるにつれて低下は見られますが、高校２年生で再び高くなっているのが特徴です。これは、平成２８年度から管内の高校２年生を対象に実施している地元企業説明会⁷の開催により、地元企業への理解が深まっているのが要因の一つと考えられます。一方、高校３年生で職業観に関する理由を挙げる割合が減少し、逆に生まれ育った地域を離れたくないと思う割合が増加していることについては、更なる調査が必要です。

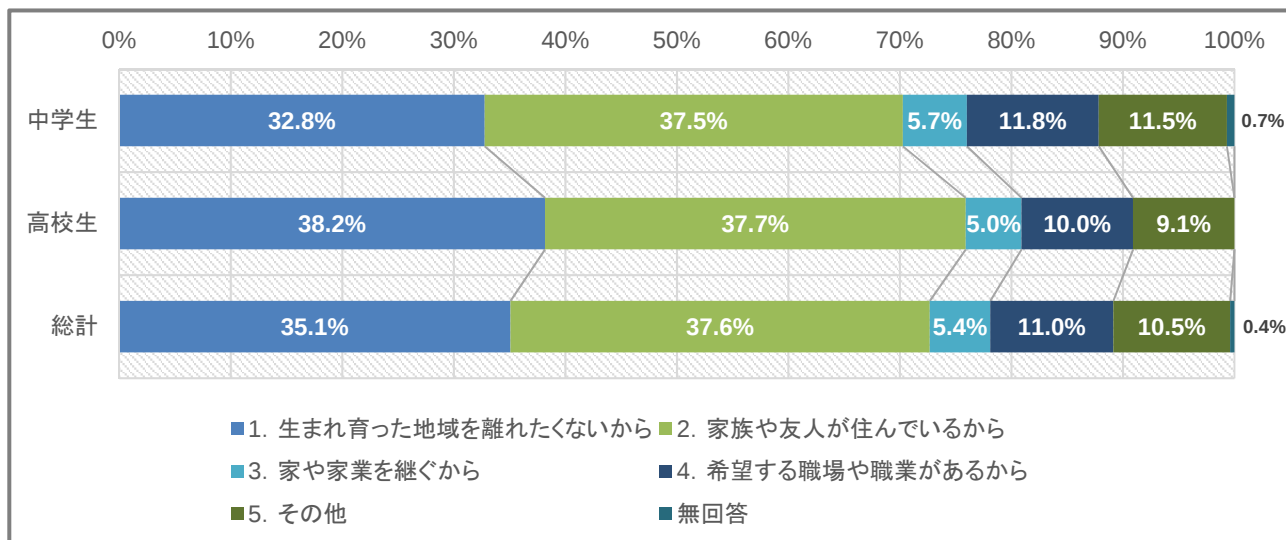
男女別では、生まれ育った地域を離れたくないと思う割合は男性が女性より 2.6 ポイント高く、家族や友人の存在を理由とする割合は、女性が男性より 7.3 ポイント高くなりました。また、職場や職業を理由とする割合は、男性が女性より 3.1 ポイント高くなっています。

在住地区別では、八幡平地区が生まれ育った地域を離れたくないと思う割合が46.2%と最も高く、十和田地区と尾去沢地区が家族や友人が住んでいることを理由とする割合が高くなりました。一方、市外在住者（高校生）でも選択肢1を選んでいますが、これは本市での学校生活を通じて、本市への愛着が醸成されていることが影響しているものと考えられます。

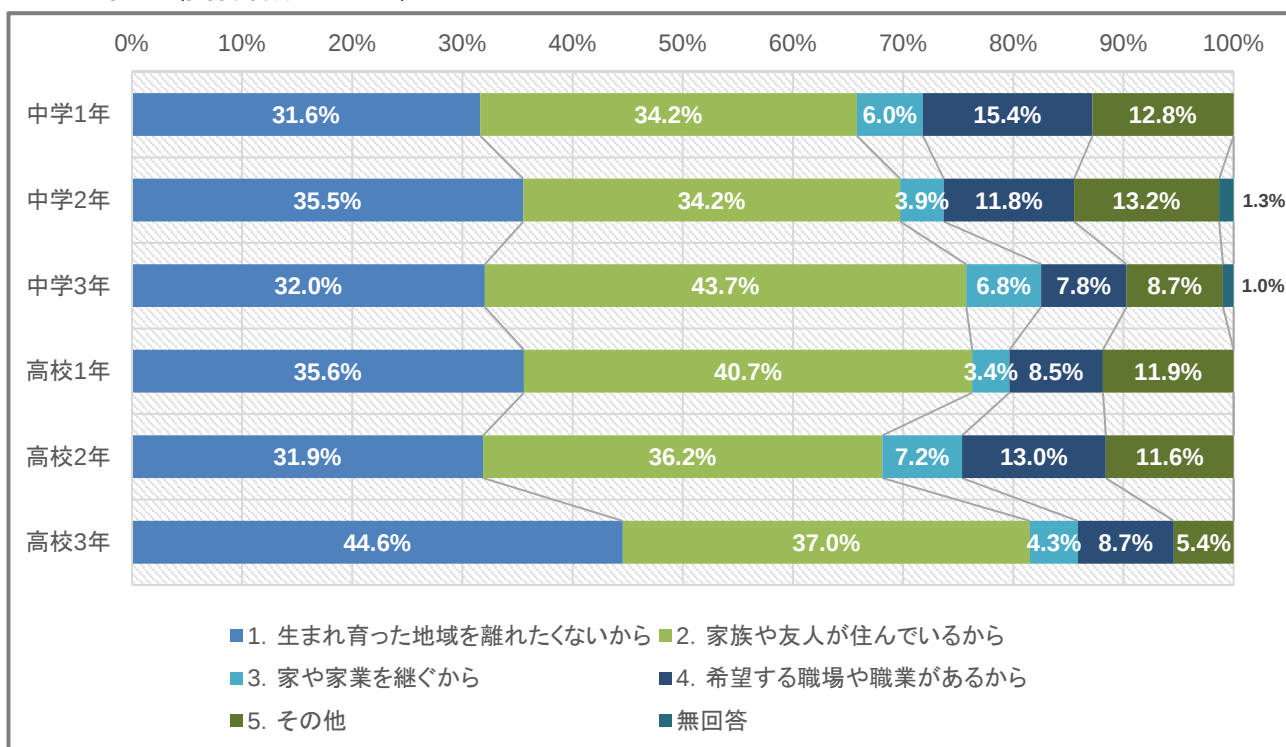
6 選択肢のうち、「1. 生まれ育った地域を離れたくないから」及び「2. 家族や友人が住んでいるから」を人生観、「3. 家や家業を継ぐから」及び「4. 希望する職場や職業がある、又は自ら起業したいから」を職業観と定義し、比較分析を行っている。

7 鹿角管内では例年7月に高校3年生を対象とした就職説明会が開催されているが、平成28年度からは新たに高校2年生を対象とした地元企業説明会が開催されている。

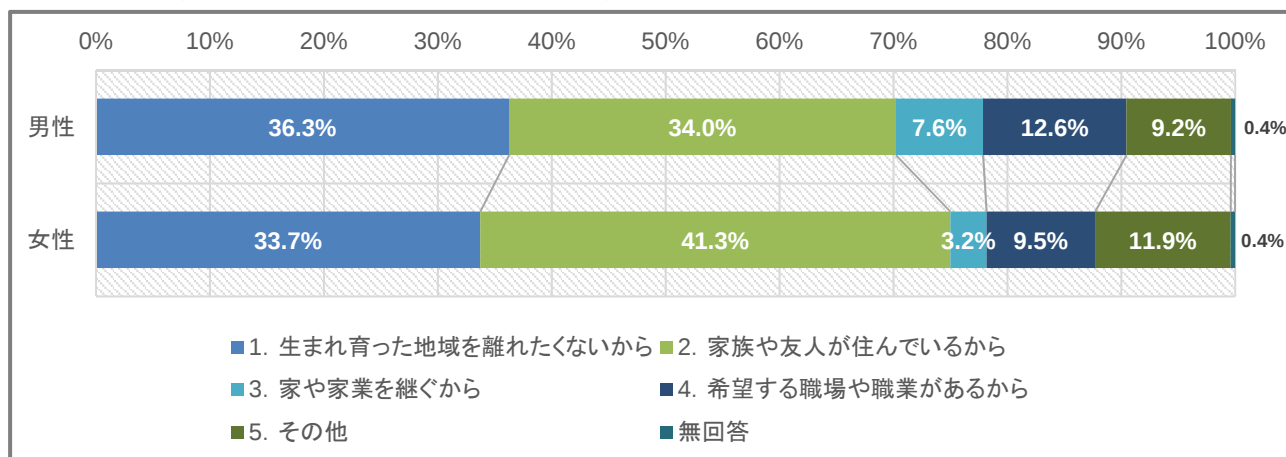
1 中高生別（回答者数 n=516）



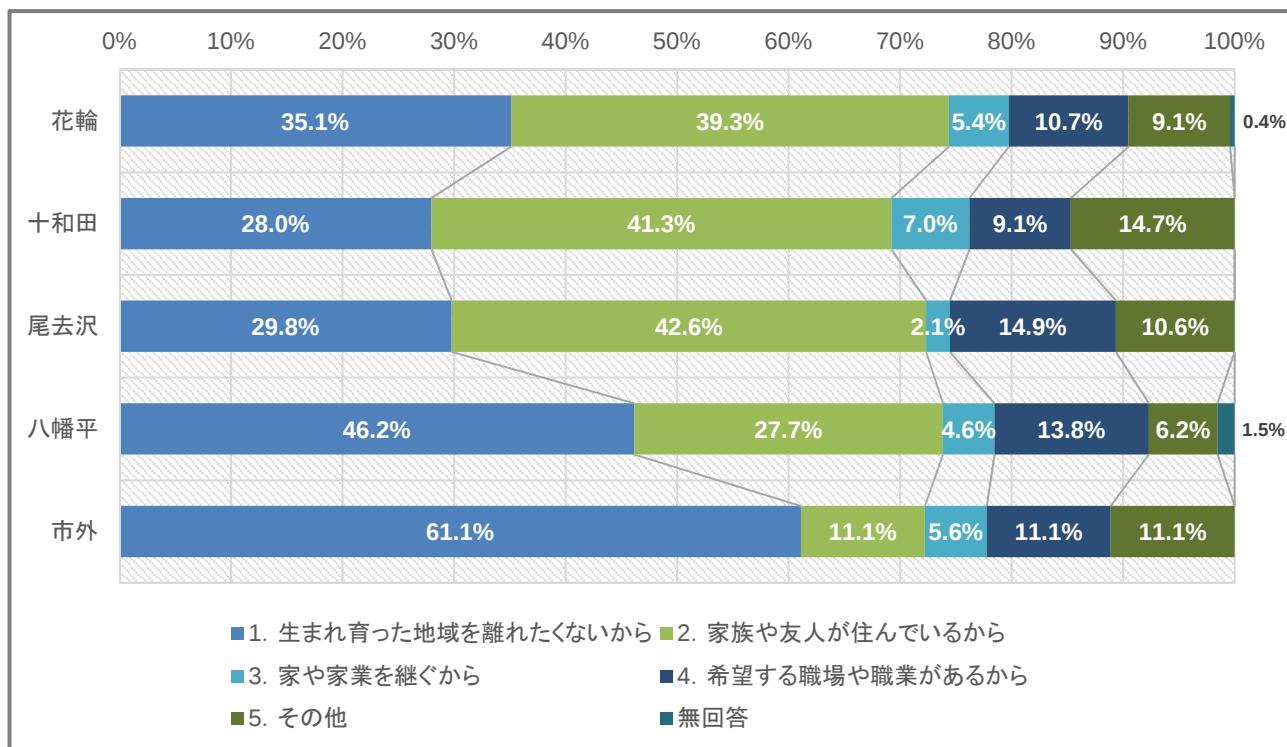
2 学年別（回答者数 n=516）



3 男女別（回答者数 n=514 ※性別不明を除く）



4 在住地区別（回答者数 n=515 ※地区不明を除く）



5 その他の理由（回答者数 n=54）

その他に記載された住みたい理由の内容については、「自然が好きだから」、「自然が多く、景観がきれいだから」、「子育てをするときに自然に触れさせてあげたいから」といった自然の豊かさを理由とする記述が多く見られました。また、「居心地が良いから」、「自分にとって落ち着く場所だから」、「環境が自分に合っているから」など、自分自身にとって住みやすい環境であることを理由とする記述も多かったです。

そのほか、「地域の役に立ちたいから」、「地元に貢献したいから」、「事件・事故、自然災害が少ないから」、「祭りに携わっていききたいから」といった理由も見られます。

B-3

B-1 で3を選んだ人にお聞きします。「住まない」と考える理由は何ですか。当てはまるもの 1つを選び、○をつけてください。

1. 都会での生活に憧れがあるから
2. 新たな環境で自分の力を試したいから
3. 希望する職場や職業がないから
4. その他（具体的に： _____）

- 都会への憧れと新たな環境での挑戦が約半数
- 希望職種がないと回答した割合は学年が上がるにつれて上昇傾向に
- 住まないと考える女性の4割強が希望職種がないと回答

【分析結果】

将来的にも本市に住まないと考える理由で最も多かったのは「3. 希望する職場や職業がないから」で38.3%、次に多かったのは「2. 新たな環境で自分の力を試したいから」で28.8%、3番目が「1. 都会での生活に憧れるから」で21.4%でした。

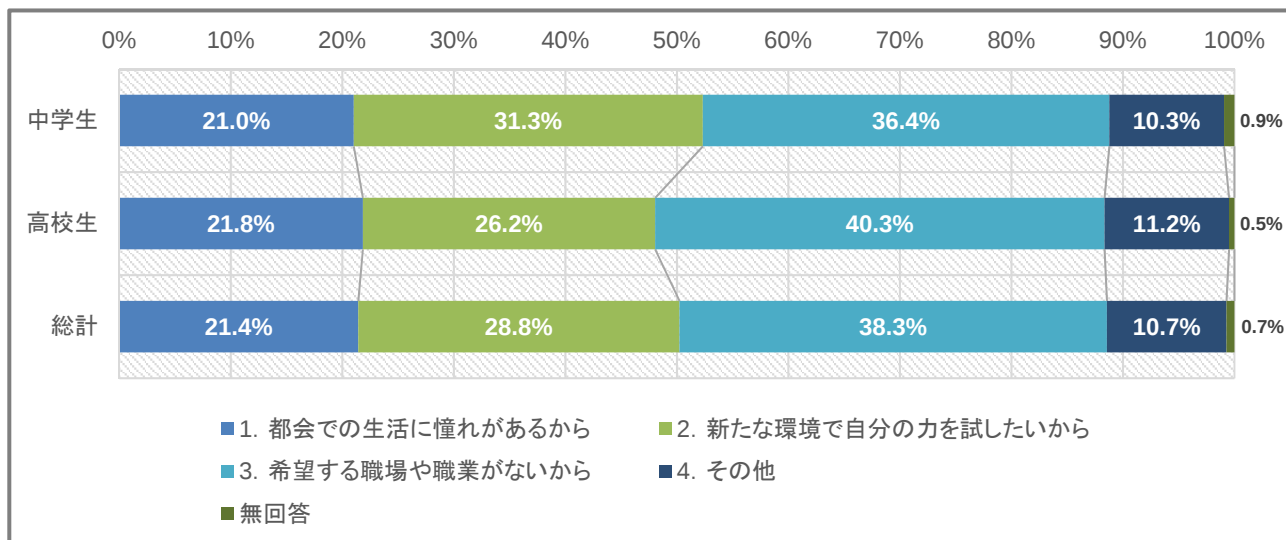
中高生別では、高校生が希望する職場や職業がないことを理由に挙げる割合が中学生より3.9ポイント高い40.3%となっており、希望する職場や職業があることが住み続ける上での重要な選択肢であることが窺えます。

学年別で希望する職場や職業がないことを理由とする割合を見ると、高校1年生が37.1%であるのに対し、高校2年生では41.0%、高校3年生では43.4%と増加しており、それと比例するように都会での生活の憧れが減少する傾向にあります。これは、進学や就職を現実的に考える時期が近づくほど、自分の将来の職業に照らし合わせて考えているものと推測され、高校生が就きたい職業とのミスマッチの解消と市内企業の魅力の浸透が課題だと考えられます。

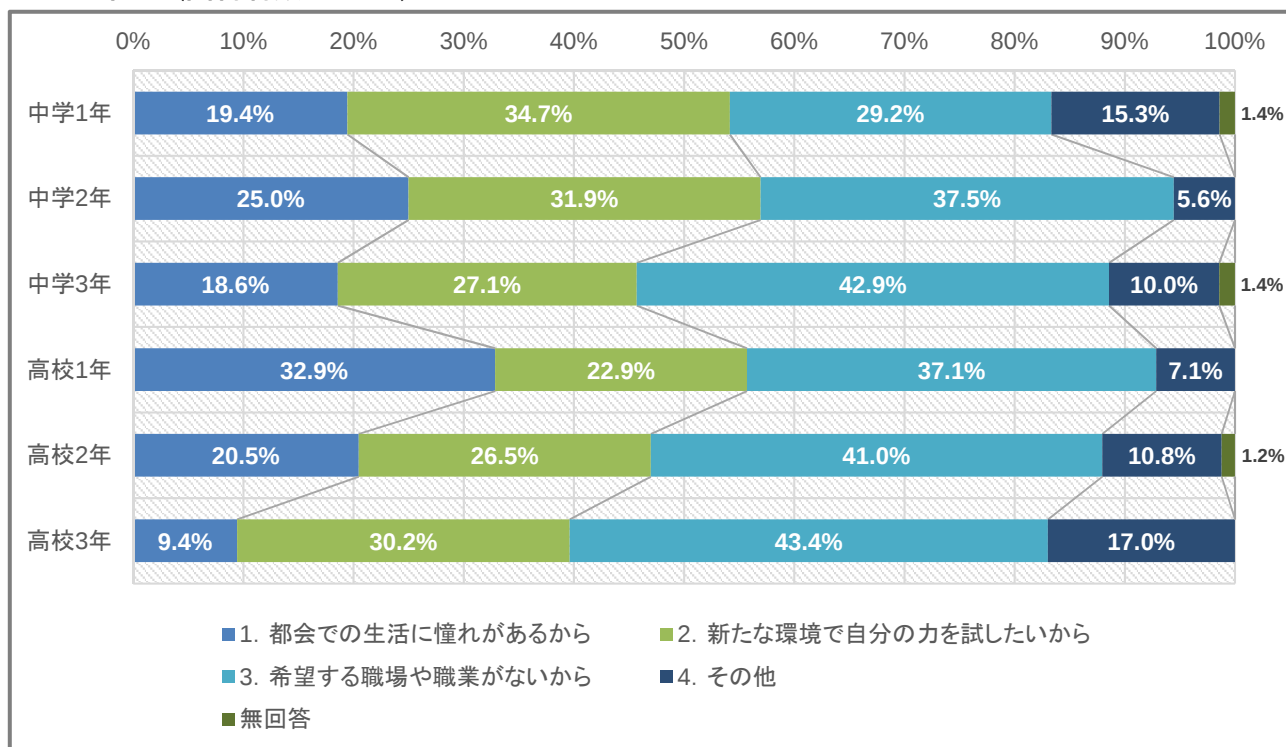
男女別では、希望する職場や職業がないことを理由にする割合が特に女性で高くなっており、前述の課題に対しては、男女間のニーズを意識したきめ細かな対策が必要といえます。

在住地区別では、都会での生活に対する憧れは、どの地域も20%前後でほぼ一定の割合となっていますが、新たな環境で自分の力を試したいとする割合は尾去沢地区が37.2%と最も高く、希望する職場や職業がないと答えた割合は八幡平地区が44.1%と最も高くなりました。

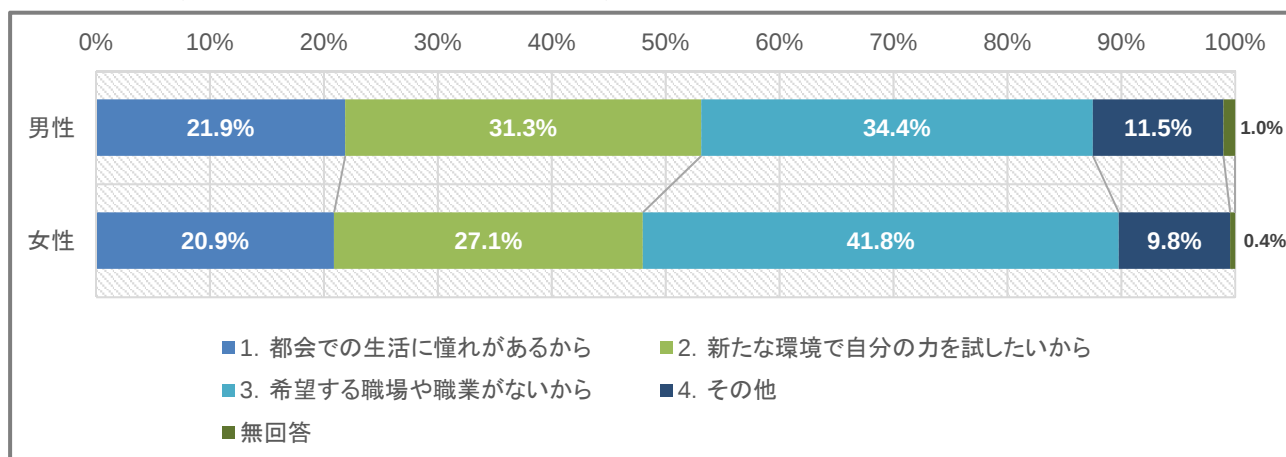
1 中高生別（回答者数 n=420）



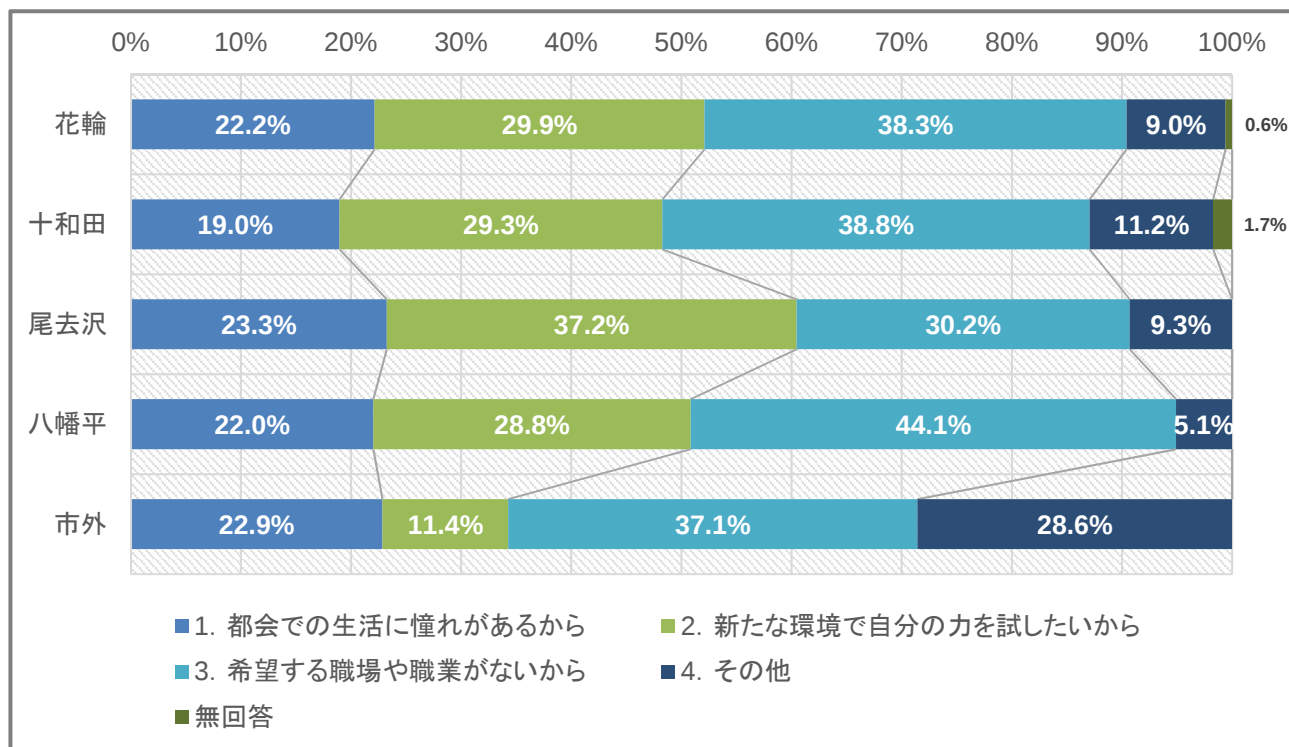
2 学年別（回答者数 n=420）



3 男女別（回答者数 n=417 ※性別不明を除く）



4 在住地区別（回答者数 n=420）



5 その他の理由（回答者数 n=44）

その他に記載された住まない理由の内容については、他市町村出身（高校生）であるという理由を除き、「交通が不便だから」、「大型商業施設がないから、商業店舗が少ないから」、「田舎で不便だから」といった都市的機能面を理由とする記述が比較的多く見られました。

そのほか、首都圏との賃金格差を理由とする意見もわずかではありましたが見られました。

B-4

あなたは、これからの社会を生きていくために、将来に向けて、どのような能力や技術、知識を磨いていきたいと考えていますか。考えに最も近いものを **3つまで選び**、○を付けてください。

1. 外国語の習得など、海外の人とコミュニケーションを深めるための能力
2. 法律・経済・金融など、社会のルールを運用・改善していくための専門的な知識
3. 農林業分野で、価値の高い作物をつくり、販売するための知識と技術力
4. 金属、機械、食料品などの製品をつくるモノづくりの知識と技術力
5. 商品の販売やサービスの提供に必要な消費者への接客応対力
6. 会社運営や起業（新しく事業を起こすこと）などに必要な経営能力
7. プログラミングなど、課題解決に ICT を活用する情報処理能力
8. 芸術文化に通じる新しいものを生み出す創造性や独創性
9. スポーツを通じた専門知識や高い身体能力

- 最も多く選択されたのは「語学・コミュニケーション能力」で 47.4%
- 「語学・コミュニケーション能力」は女性が男性を 15.5%上回る

【分析結果】

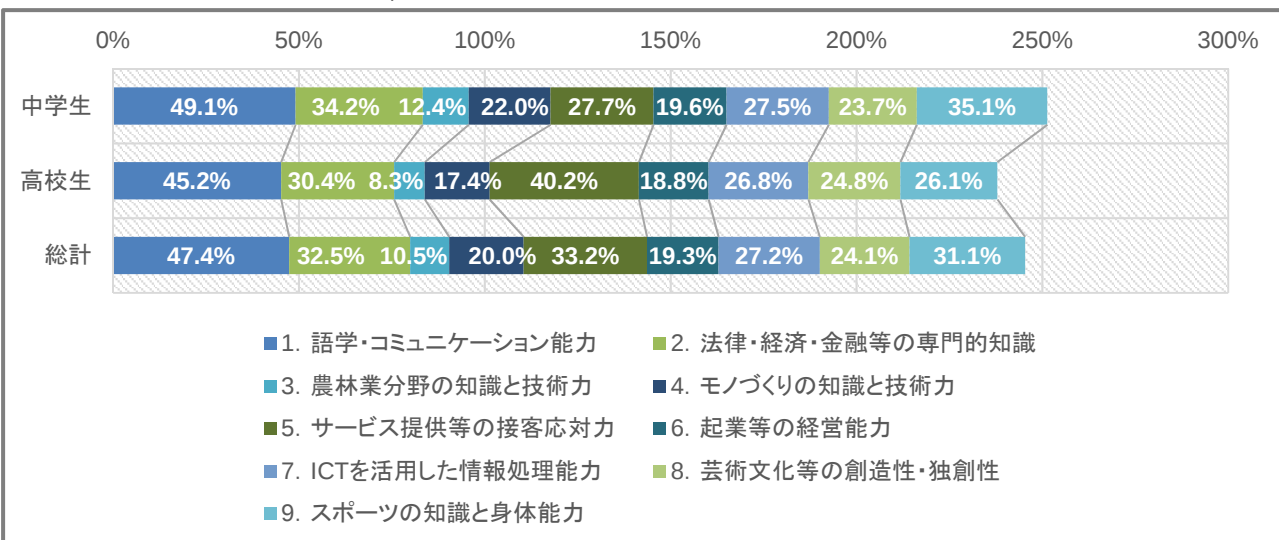
設問B-4では、「生きる力」として、自身が必要と考える能力や技術等を調査しました。

最も多く選ばれたのは、「語学・コミュニケーション能力」で 47.4%に上っています。2番目に多く選ばれたのは、「サービス提供等の接客応対力」で 33.2%、3番目が「法律・経済・金融等の専門的知識」で 32.5%でした。中高生別にみると、中学生が「農林業分野の知識と技術力」や「スポーツの知識と身体能力」を選ぶ割合が比較的高いのに対し、高校生では「サービス提供等の接客応対力」を選ぶ傾向が高くなっています。

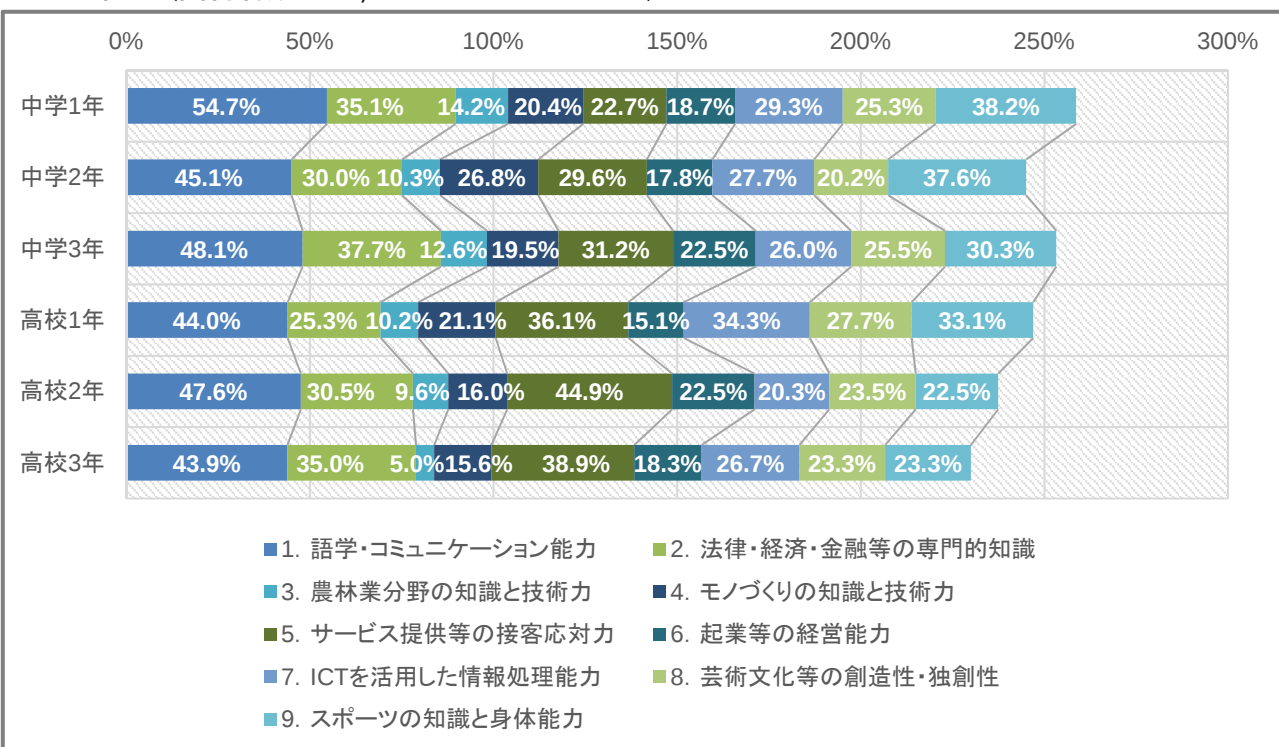
学年別では、「サービス提供等の接客応対力」が学年が上がるごとに高くなる一方、「スポーツの知識と身体能力」が低くなっていく傾向にあります。

男女別では、女性が「語学・コミュニケーション能力」、「サービス提供等の接客応対力」、「芸術文化等の創造性・独創性」を選択する割合が高く、男性は「モノづくりの知識と技術力」、「ICTを活用した情報処理能力」、「スポーツの知識と身体能力」を選択する割合が高くなっています。

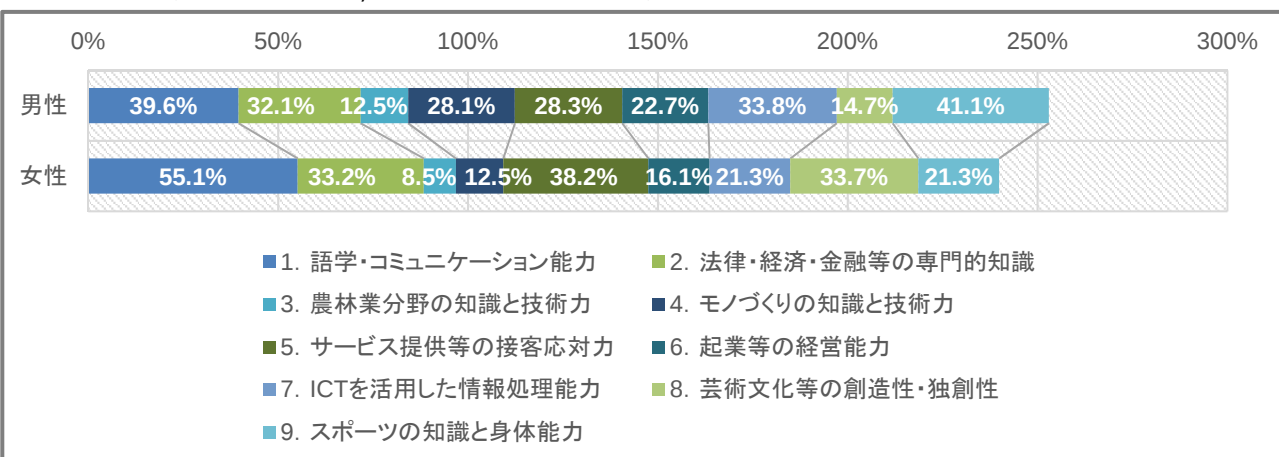
1 中高生別（回答者数 n=1,205）



2 学年別（回答者数 n=1,202 ※学年不明者を除く）



3 男女別（回答者数 n=1,193 ※性別不明者を除く）



4 「居住意向」×「将来スキル」のクロス集計

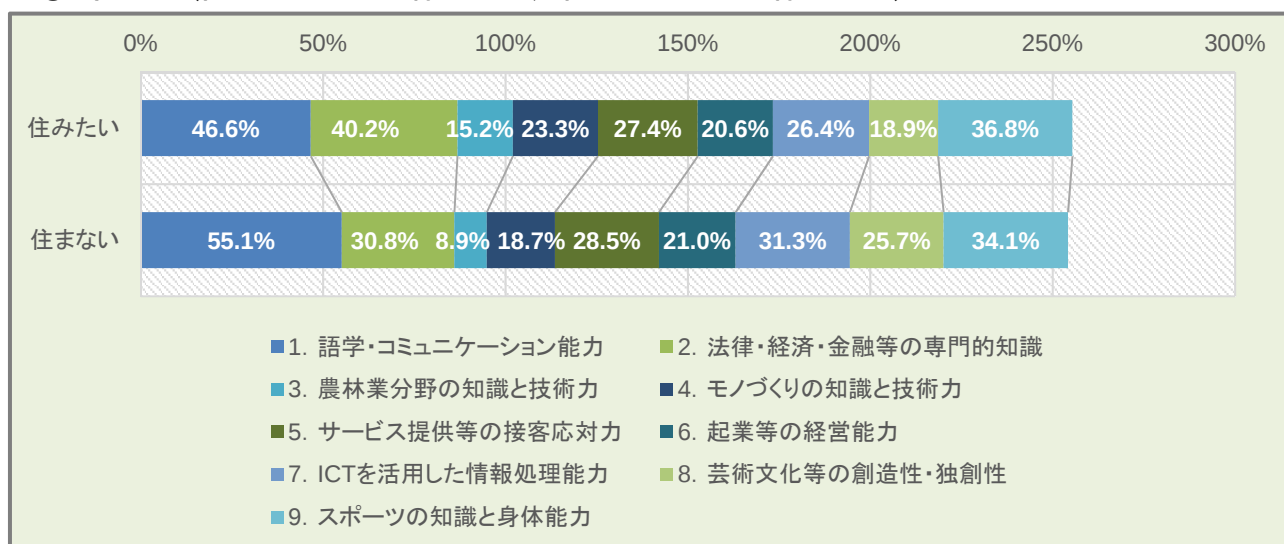
B-1で「1. 引き続き住みたいと思う」及び「2. 進学や就職等で一度離れるかもしれないが、将来的には住みたいと思う」を選択した回答者と「3. 将来的にも住まないと思う」を選択した回答者の職業観を比較

◆中高生別の分析結果

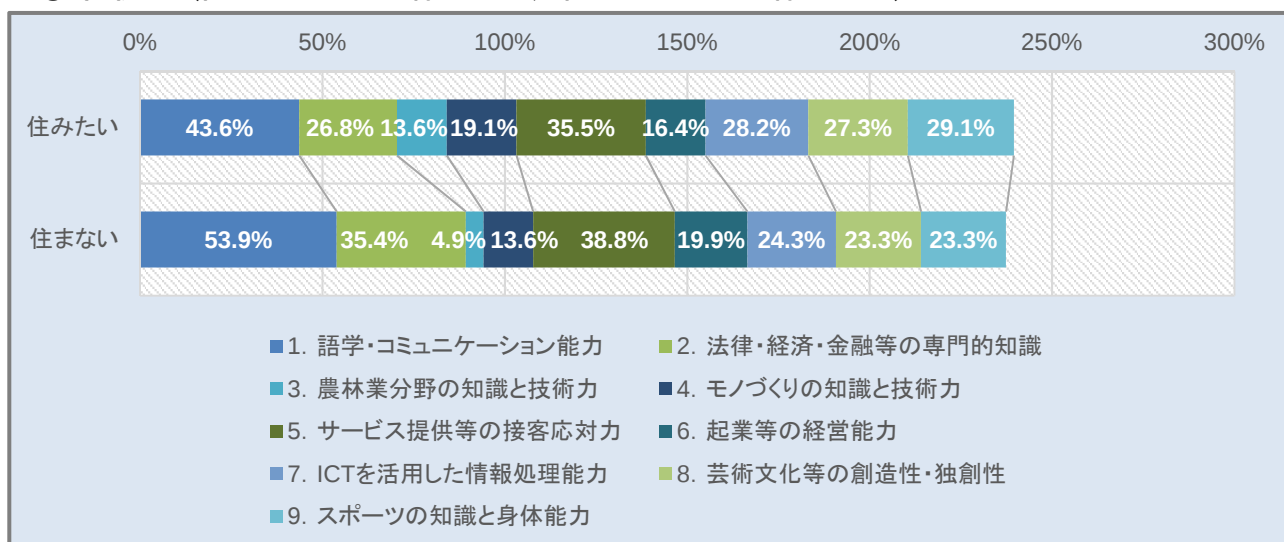
居住意向の差が将来必要と考える力にどのような違いとして表れているかを調べたところ、数値に大きな違いが表れたのは、「語学・コミュニケーション能力」であり、住みたいと思う層に比べ、住まないと思う層の方が中学生では8.5ポイント高く、高校生では10.3ポイント高くなっています。

一方、両者の差が大きい選択肢の中で、住みたいと思う層が多く選択しているのは、「農林業分野の知識と技術力（中学生6.3ポイント差・高校生8.7ポイント差）」、「モノづくりの知識と技術力（中学生4.6ポイント差・高校生5.5ポイント差）」であり、本市の基幹産業である農業や製造業への意識が高いものと考えられます。また、「スポーツの知識と身体能力」に関しても、スキーや駅伝をはじめとする世界へ羽ばたく選手を輩出している環境が生徒の意識に影響していると考えられます。

① 中学生（住みたいと思う層 n=296／住まないと思う層 n=214）



② 高校生（住みたいと思う層 n=220／住まないと思う層 n=206）



5 「希望職種の有無」×「将来スキル」のクロス集計

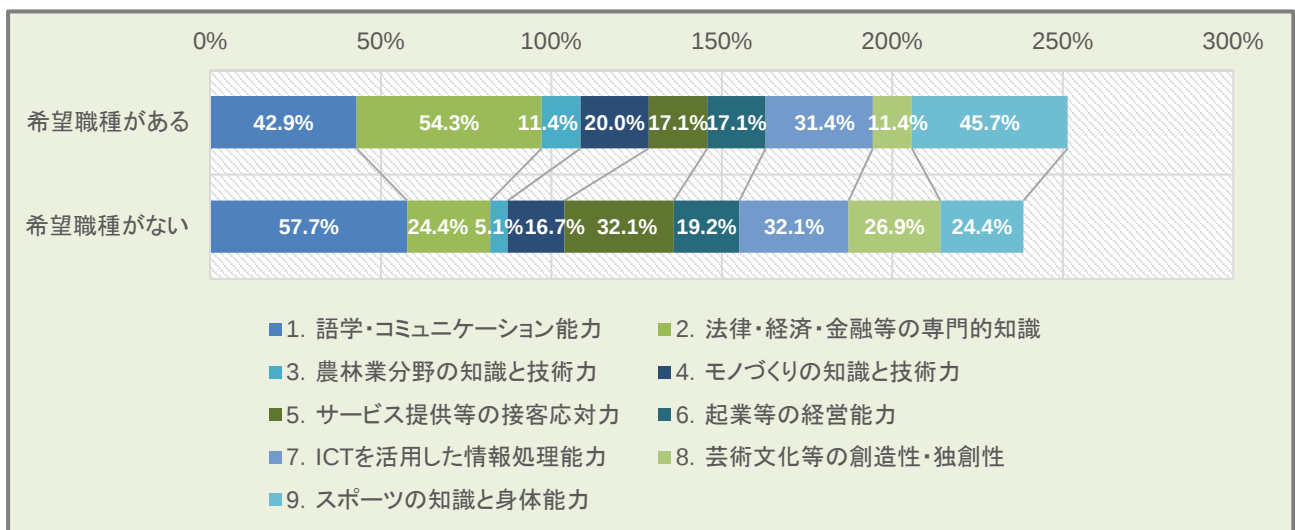
B-2で「4. 希望する職場や職業がある、又は自ら起業したいから」を選択した回答者とB-3で「3. 希望する職場や職業がないから」を選択した回答者の職業観を比較

◆中高生別の分析結果

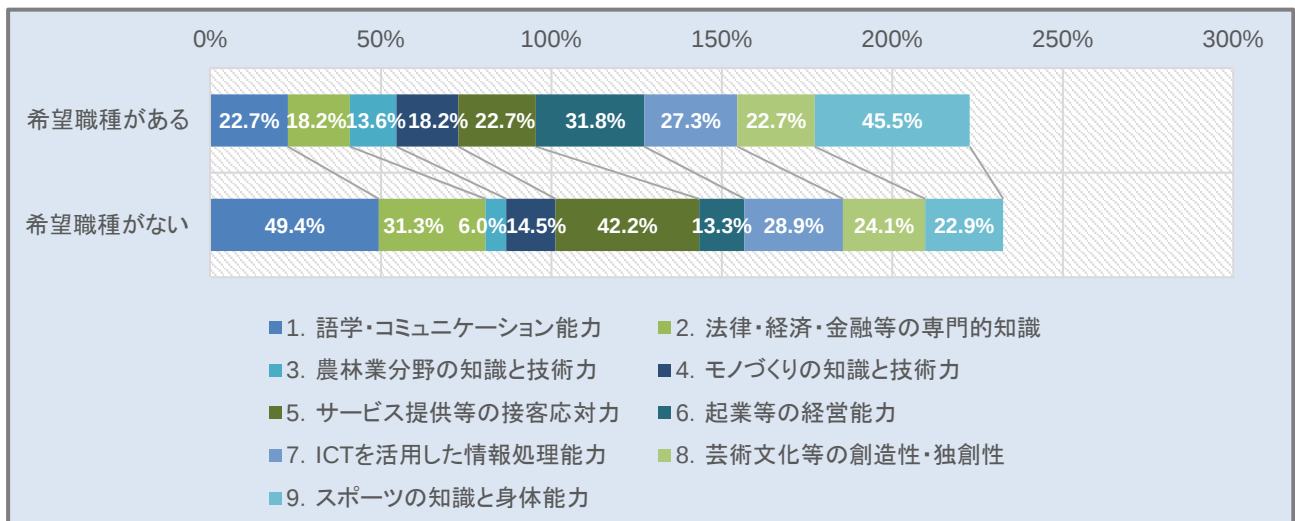
次に、将来必要と考える能力と市内での希望する職場や職業の有無についての関係を調べたところ、希望する職場や職業がないと答えた層では、中高生ともに「語学・コミュニケーション能力」が最も高く、これらの能力を生かした仕事を求めていることが窺えます。また、「サービス提供等の接客応対力」についても中学生で32.1%、高校生で42.2%と高い割合を示しています。なお、「法律・経済・金融等の専門知識」では、中学生と高校生で差が大きく、中学生では50%を超えていたものが、高校生では20%を下回っています。

一方、希望する職場や職業があると答えた層を見ると、「スポーツの知識と身体能力」が中学生で45.7%、高校生で45.5%と高い割合を示しているほか、希望する職場や職業がないと答えた層と比較すると、「農林業分野の知識と技術力」、「モノづくりの知識と技術力」、「起業等の経営能力」を選択する割合も高く、本市が産業力強化のために力を入れている施策と一致する傾向にあります。

① 中学生（市内に希望する職場や職種があると考える層 n=35／ないと考える層 n=78）



② 高校生（市内に希望する職場や職種があると考える層 n=22／ないと考える層 n=83）



C-1

あなたや家族、地域の人が将来にわたって豊かに暮らすために、大切だと思うまちのすがたを **3つまで選び**、○を付けてください。

1. 職業選択が豊富で、経済成長し続ける「地域産業が活発なまち」
2. 誰もが健康に暮らせ、福祉が充実した「健康と福祉のまち」
3. 多くの観光客や市外との交流が活発な「観光・交流のまち」
4. 伝統や文化が継承され「歴史文化が息づくまち」
5. 娯楽や買い物施設が多く、余暇活動が充実した「商業・レジャーのまち」
6. 災害や犯罪の少ない「安心・安全のまち」
7. 住民がつながり、誰もがまちづくりに参画する「市民総参加のまち」
8. 農山村環境が守られ、「自然と共生するまち」
9. 子育てや教育環境が充実した「子育てと教育のまち」
10. 環境資源と先端技術を活用した「新エネルギーのまち」

- 最も多く選択されたのは「健康と福祉のまち」46.6%
- 「子育てと教育のまち」は学年が上がるにつれて上昇

【分析結果】

最も多くの生徒に選ばれたのは、誰もが健康に暮らせ、福祉が充実した「健康と福祉のまち」で、46.6%が選択しています。次いで、災害や犯罪の少ない「安心・安全のまち」が43.3%、職業選択が豊富で、経済成長し続ける「地域産業が活発なまち」が38.0%と続いており、今年度18歳から74歳までの市民700人を対象とした市民アンケート調査⁸と順位が異なる結果となりました。

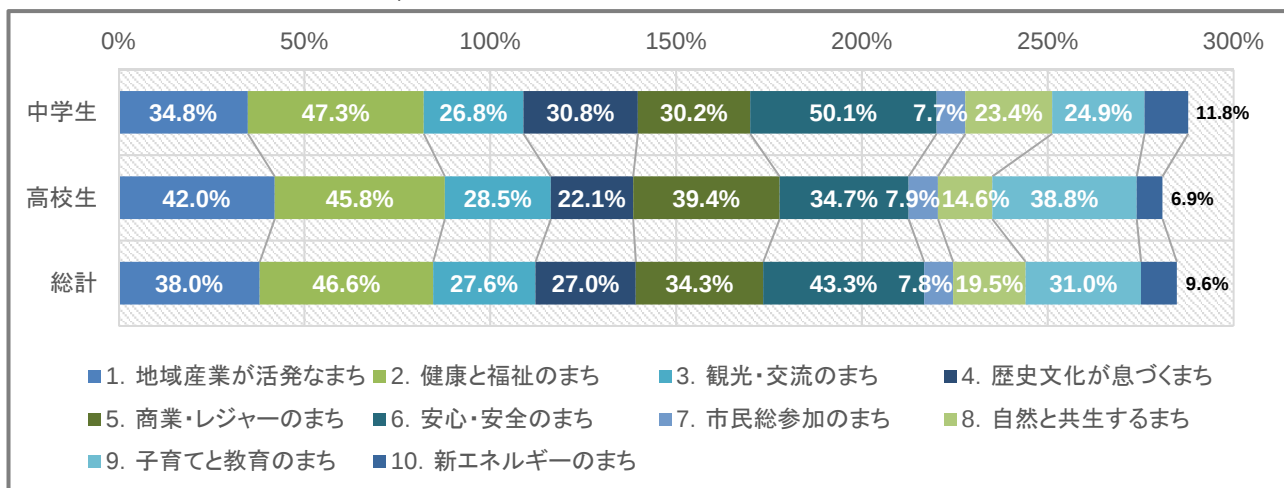
学年別では、「安心・安全のまち」を選ぶ割合は学年が上がるにつれて低くなり、その一方で「子育てと教育のまち」を選択する割合が増加していることが特徴として挙げられます。

また、男女別にみると、男性が「地域産業が活発なまち」を選択する割合が高い一方、女性は「健康と福祉のまち」、「子育てと教育のまち」を選択する割合が高い傾向にあります。

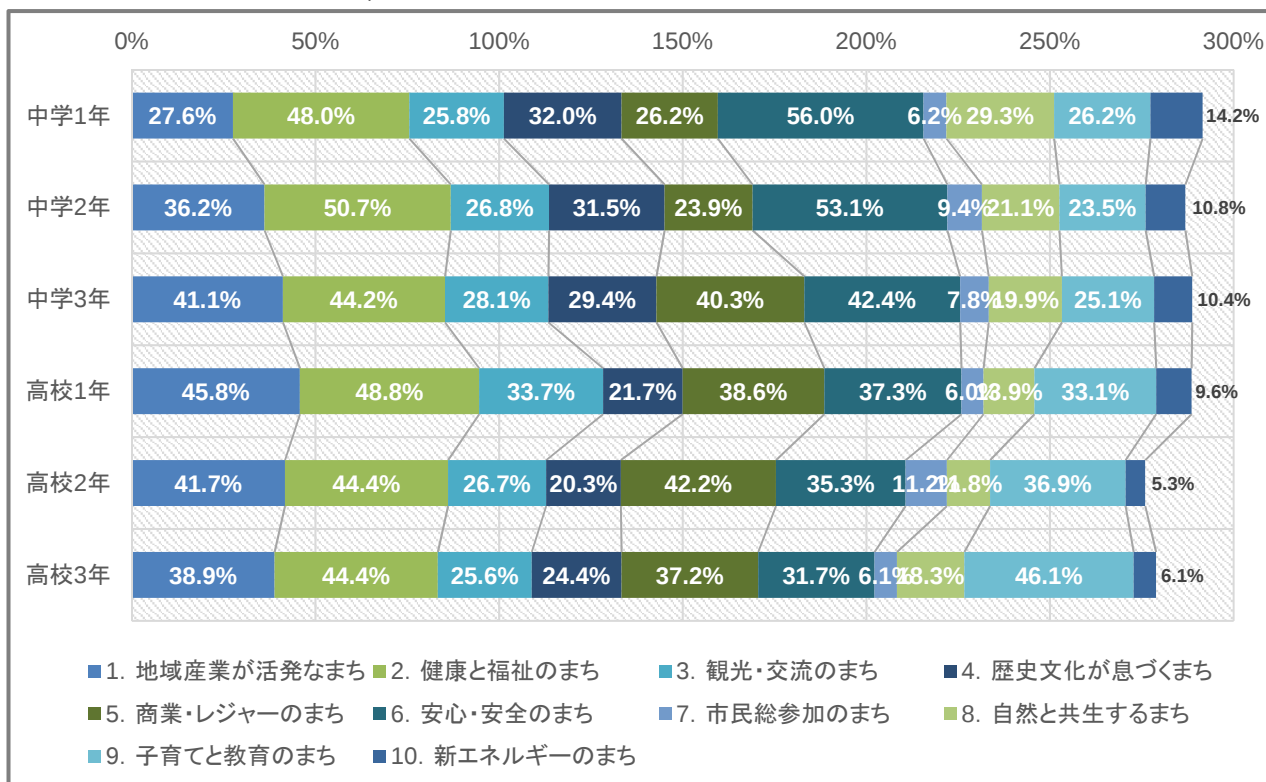
⁸ 市民アンケートでは、地域産業が活発なまち（58.1%）、健康と福祉のまち（56.2%）、安心・安全のまち（43.6%）、子育てと教育のまち（40.8%）、商業・レジャーのまち（26.5%）、歴史文化が息づくまち（18.1%）、観光・交流のまち（15.4%）、自然と共生するまち（13.1%）、新エネルギーのまち（7.3%）、市民総参加のまち（4.2）という結果であった。

市民アンケート結果（鹿角市ホームページ）https://www.city.kazuno.akita.jp/shisei_machizukuri/gaiyo_keikaku/4/3157.html

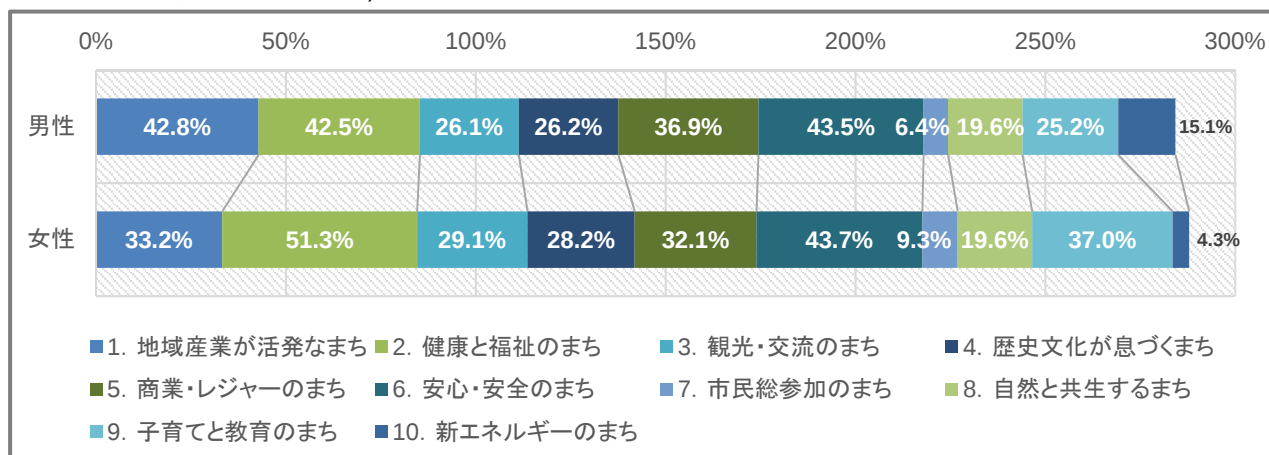
1 中高生別（回答者数 n=1,205）



2 学年別（回答者数 n=1,202 ※学年不明者を除く）

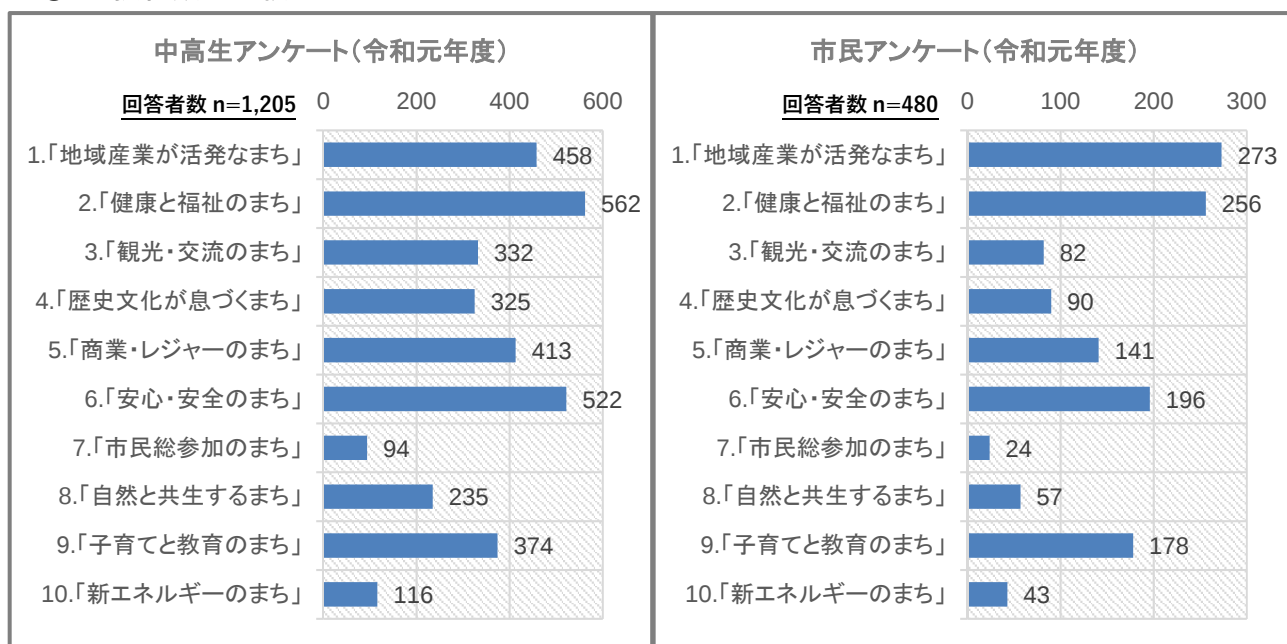


3 男女別（回答者数 n=1,193 ※性別不明者を除く）

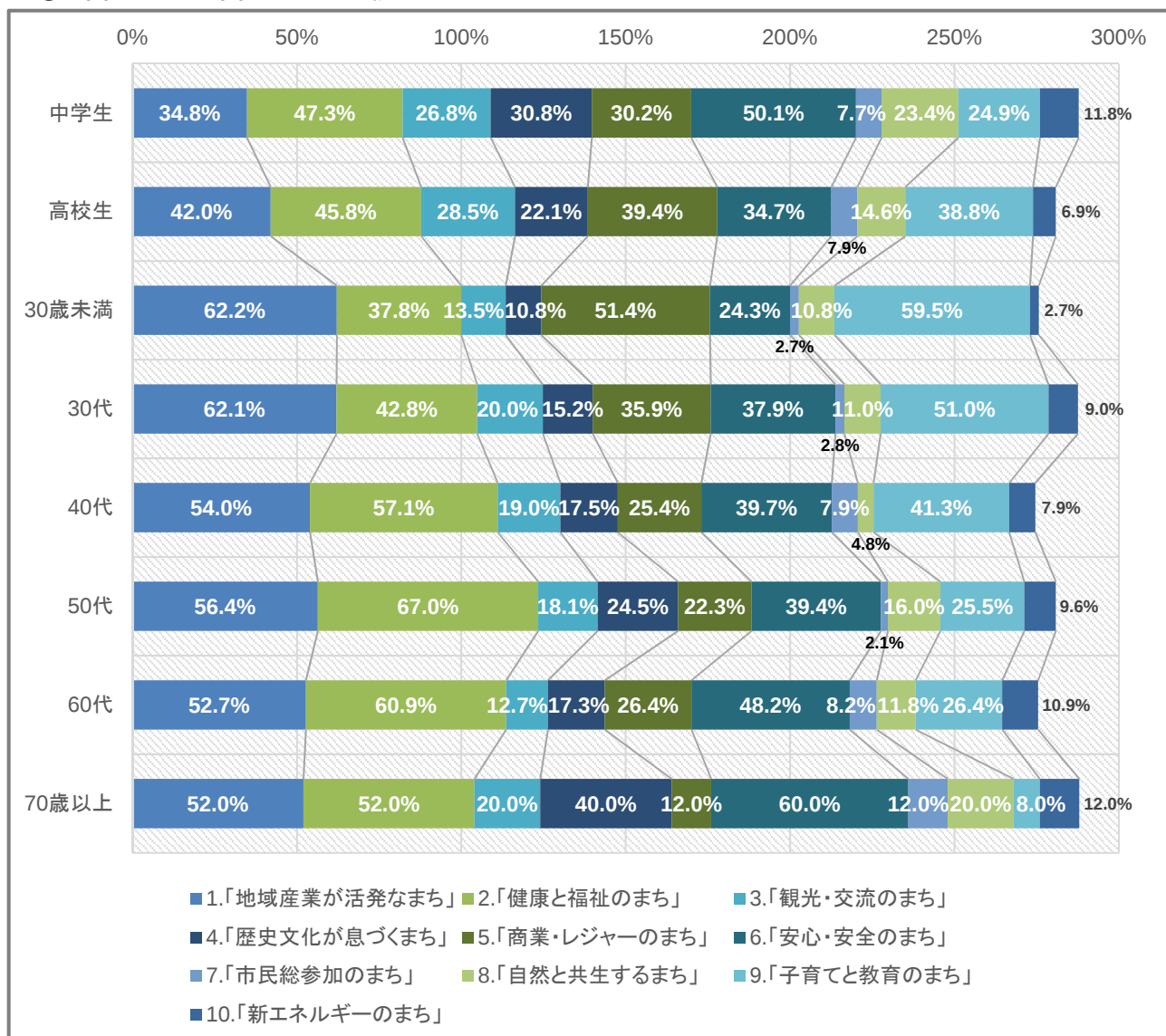


4 市民アンケートとの比較

① 選択総数の比較



② 中高生別・年代別での比較



5 「居住意向」×「今後のまちづくり」のクロス集計

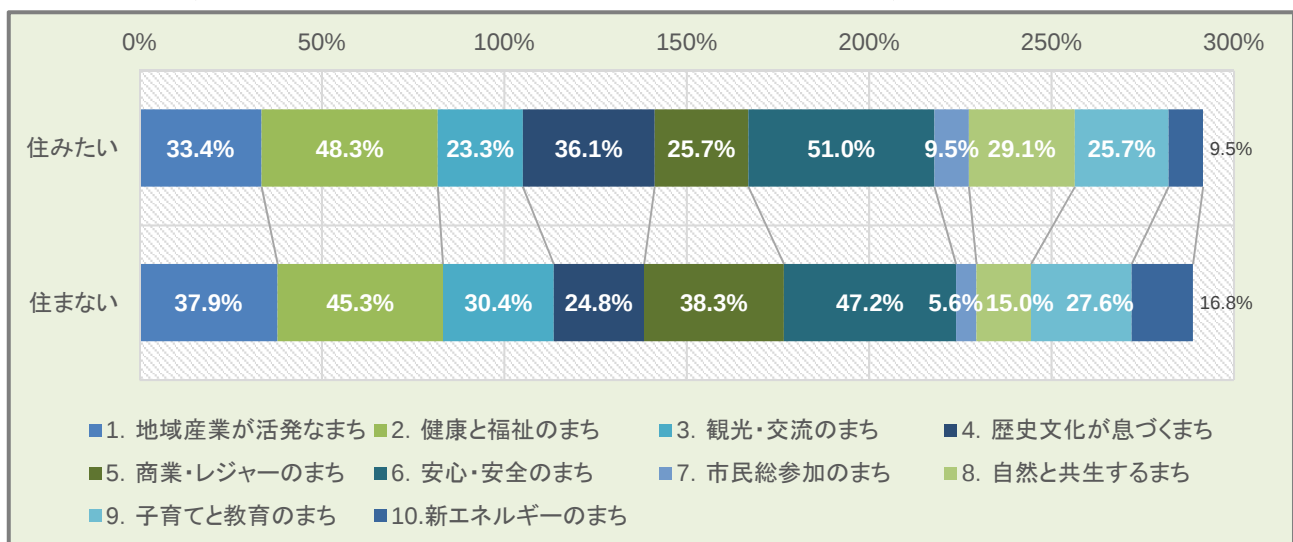
B-1で「1. 引き続き住みたいと思う」及び「2. 進学や就職等で一度離れるかもしれないが、将来的には住みたいと思う」を選択した回答者と「3. 将来的にも住まないと思う」を選択した回答者の今後のまちづくり意識を比較

◆中高生別の分析結果

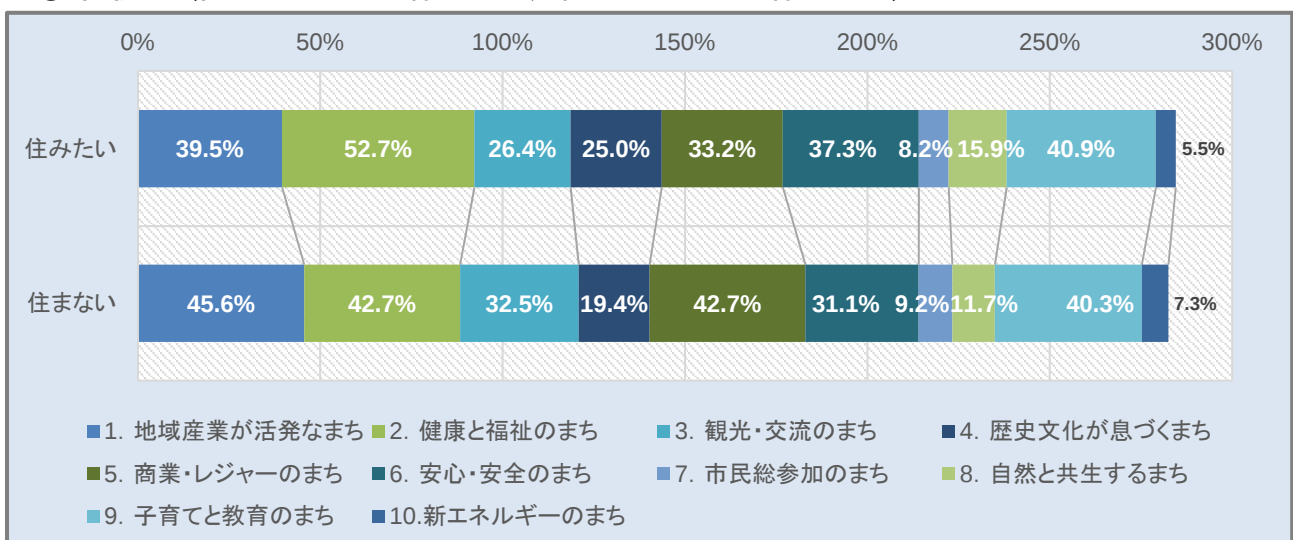
居住意向の差が大切だと思ふまちの姿の認識にどのような違いとして表れているかを調べたところ、中学生、高校生のいずれも、住みたいと思う層が選ぶ選択肢と住まないと思う層が選ぶ選択肢は類似傾向にあります。住みたいと思う層が住まないと思う層と比べて重視するのは、中学生では「自然と共生するまち（14.1ポイント差）」、「歴史文化が息づくまち（11.3ポイント差）」となっており、高校生では「健康と福祉のまち（10.0ポイント差）」、「安心・安全のまち（6.2ポイント差）」となりました。

一方、住まないと思う層が住みたいと思う層に比べ重視するのは、中学生では「商業・レジャーのまち（12.6ポイント差）」、「新エネルギーのまち（7.3ポイント差）」、「観光・交流のまち（7.1ポイント差）」となっており、高校生では「商業・レジャーのまち（9.5ポイント差）」でした。

① 中学生（住みたいと思う層 n=296／住まないと思う層 n=214）



② 高校生（住みたいと思う層 n=220／住まないと思う層 n=206）

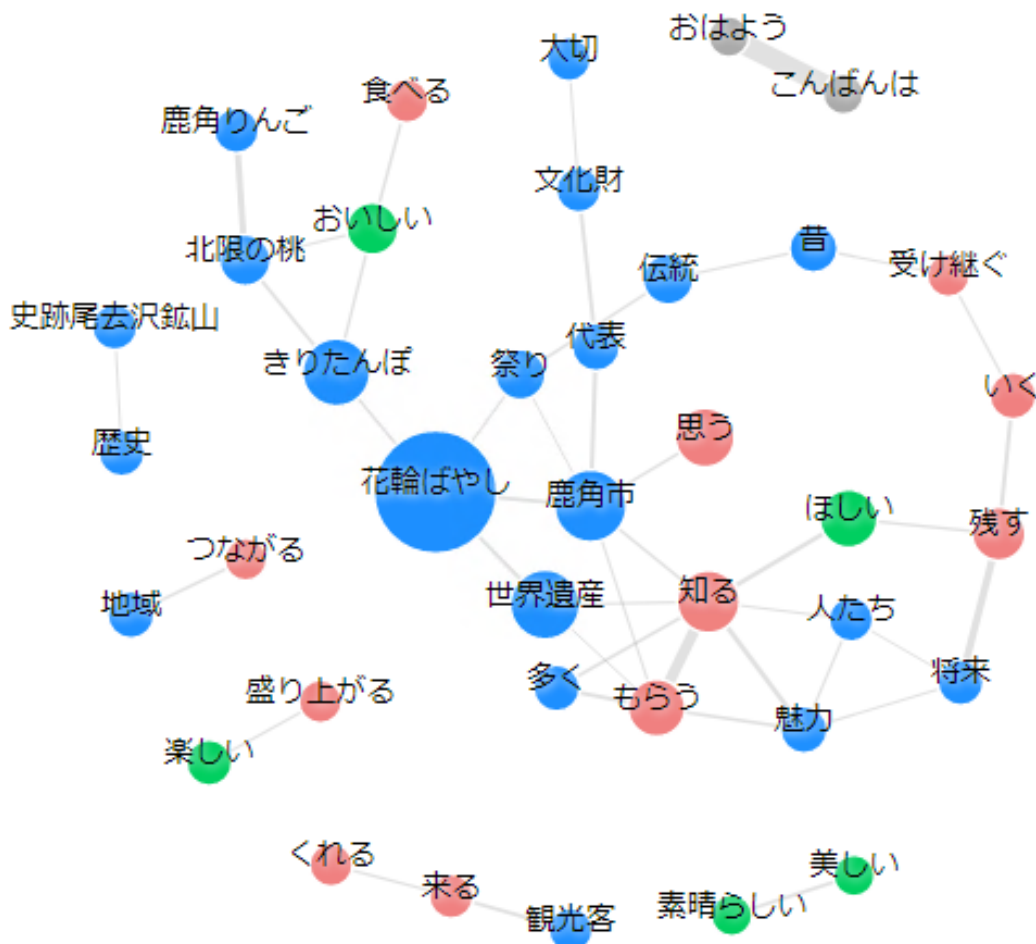


C-2

鹿角市にあるもので、あなたが「将来に残したいもの」、「自慢できるもの」、「象徴するもの」などを教えてください。（行事、場所、食べ物など、自由に書いてください。）

自由記載の回答であり、回答者 1,205 人のうち 1,125 人（93.9%）から意見が寄せられました。これら意見については、語句関連性分析（テキストマイニング）による分析を行いました。

語句関連性分析（テキストマイニング）とは、大量のテキストデータから、隠れた情報や特徴、傾向、相関関係を探し出す技術であり、全体やクラスターごとにまとめて重要語キーワードを抽出しながら、その出現頻度や同時出現関係等を分析したい場合などに用いる手法です。



【分析結果】

回答の傾向は多岐にわたっていますが、鹿角市で将来残したいものや自慢できるものとして、「花輪ばやし」「世界遺産」という語句が最も多く用いられており、それに関連して観光客をはじめとする多くの人々に知ってほしいという意識が強いことが窺えます。また、「きりたんぽ」や「北限の桃」といった本市ならではの食材を挙げる割合も高く見られました。

◆単語出現頻度⁹（上位 15 単語）

■ 名詞	スコア ▼	出現頻度 ▼
花輪ばやし	12467.82	727
鹿角市	4364.86	277
世界遺産	2073.11	254
きりたんぼ	1478.63	237
北限の桃	1287.81	91
毛馬内盆踊り	1009.87	73
大湯ストーンサークル	948.92	69
大日堂舞楽	888.31	65
花輪ねぶた	634.99	48
史跡尾去沢鉱山	576.55	44
鹿角りんご	518.64	40
伝統	395.88	86
文化財	275.78	38
アルバス	252.77	21
コモッセ	212.66	18

■ 動詞	スコア ▼	出現頻度 ▼
残す	132.93	90
誇れる	77.64	20
知る	52.88	153
受け継ぐ	44.68	17
もらう	40.32	116
にぎわう	29.94	6
つながる	14.75	13
広める	13.89	10
親しむ	10.47	5
楽しめる	9.76	20
訪れる	9.40	9
思う	9.29	129
盛り上がる	8.38	17
活かす	6.50	7
できる	5.10	64

■ 形容詞	スコア ▼	出現頻度 ▼
おいしい	70.29	78
ほしい	41.28	121
数少ない	3.96	5
楽しい	2.96	36
少ない	2.89	16
ふさわしい	1.87	2
優しい	1.34	12
温かい	0.85	3
多い	0.74	16
美しい	0.62	5
誇らしい	0.59	1
広い	0.58	4
いい	0.55	27
長い	0.55	7
目覚ましい	0.53	1

⁹ 文章中出现する単語の出現頻度を表に表している。単語ごとに表示される「スコア」の大きさは、文章の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している。

資 料

第7次鹿角市総合計画 まちづくり中高生アンケート調査回答票

はじめに、あなた自身のことについてお聞きします。

A-1

あなたが通学している学校と学年に○を付けてください。

- | | | | | | | | |
|------------|---|-----|---|-----|---|-----|---|
| 1. 花輪第一中学校 | [| 1 年 | ・ | 2 年 | ・ | 3 年 |] |
| 2. 花輪第二中学校 | [| 1 年 | ・ | 2 年 | ・ | 3 年 |] |
| 3. 十和田中学校 | [| 1 年 | ・ | 2 年 | ・ | 3 年 |] |
| 4. 尾去沢中学校 | [| 1 年 | ・ | 2 年 | ・ | 3 年 |] |
| 5. 八幡平中学校 | [| 1 年 | ・ | 2 年 | ・ | 3 年 |] |
| 1. 花輪高等学校 | [| 1 年 | ・ | 2 年 | ・ | 3 年 |] |
| 2. 十和田高等学校 | [| 1 年 | ・ | 2 年 | ・ | 3 年 |] |

A-2

あなたの性別に○を付けてください。

1. 男性 2. 女性

A-3

あなたのお住いの地域に○を付けてください。(高校生のみ)

- (市内) 1. 花輪 2. 十和田 3. 尾去沢 4. 八幡平
(市外) 5. 小坂町 6. 大館市 7. 北秋田市 8. 八幡平市
 9. その他の市町村()

B**あなたの将来についてお聞きします。****B-1**

あなたは、大人になったら鹿角市に住みたいと思いますか。当てはまるもの 1つを選び、○をつけてください。

1. 引き続き住みたいと思う → B2へ
2. 進学や就職等で一度離れるかもしれないが、将来的には住みたいと思う → B2へ
3. 将来的にも住まないと思う → B3へ
4. わからない

B-2

B-1 で1又は2を選んだ人にお聞きします。「住みたい」と考える理由は何ですか。当てはまるもの 1つを選び、○をつけてください。

1. 生まれ育った地域を離れたくないから
2. 家族や友人が住んでいるから
3. 家や家業を継ぐから
4. 希望する職場や職業がある、又は自ら起業（新しく事業を起こすこと）したいから
5. その他（具体的に： ）

B-3

B-1 で3を選んだ人にお聞きします。「住まない」と考える理由は何ですか。当てはまるもの 1つを選び、○をつけてください。

1. 都会での生活に憧れがあるから
2. 新たな環境で自分の力を試したいから
3. 希望する職場や職業がないから
4. その他（具体的に： ）

B-4

あなたは、これからの社会を生きていくために、将来に向けて、どのような能力や技術、知識を磨いていきたいと考えていますか。考えに最も近いものを 3つまで選び、○を付けてください。

1. 外国語の習得など、海外の人とコミュニケーションを深めるための能力
2. 法律・経済・金融など、社会のルールを運用・改善していくための専門的な知識
3. 農林業分野で、価値の高い作物をつくり、販売するための知識と技術力
4. 金属、機械、食料品などの製品をつくるモノづくりの知識と技術力
5. 商品の販売やサービスの提供に必要な消費者への接客応対力
6. 会社運営や起業（新しく事業を起こすこと）などに必要な経営能力
7. プログラミングなど、課題解決に ICT を活用する情報処理能力
8. 芸術文化に通じる新しいものを生み出す創造性や独創性
9. スポーツを通じた専門知識や高い身体能力

C

今後のまちづくりについて伺います。

C-1

あなたや家族、地域の人が将来にわたって豊かに暮らすために、大切だと思うまちのすがたを **3つまで選び**、○を付けてください。

1. 職業選択が豊富で、経済成長し続ける「地域産業が活発なまち」
2. 誰もが健康に暮らせ、福祉が充実した「健康と福祉のまち」
3. 多くの観光客や市外との交流が活発な「観光・交流のまち」
4. 伝統や文化が継承され「歴史文化が息づくまち」
5. 娯楽や買い物施設が多く、余暇活動が充実した「商業・レジャーのまち」
6. 災害や犯罪の少ない「安心・安全のまち」
7. 住民がつながり、誰もがまちづくりに参画する「市民総参加のまち」
8. 農山村環境が守られ、「自然と共生するまち」
9. 子育てや教育環境が充実した「子育てと教育のまち」
10. 環境資源と先端技術を活用した「新エネルギーのまち」

C-2

鹿角市にあるもので、あなたが「将来に残したいもの」、「自慢できるもの」、「象徴するもの」などを教えてください。(行事、場所、食べ物など、自由に書いてください。)

(記入例) 花輪ばやし、大日堂舞楽、○○○○○…

理由：世界遺産に登録された鹿角市を代表する文化財であり、将来に残して国内外の多くの人たちに魅力を知ってもらいたいから。

アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。

記入が済んだら、担任の先生に提出してください。

第7次鹿角市総合計画
まちづくり中高生アンケート
実施結果報告書

令和元年 10 月
鹿角市総務部政策企画課総合戦略室
電話：0186-30-0201
FAX：0186-30-1122
E-mail：kikaku@city.kazuno.lg.jp